

研究室から——

【地域環境計画研究室】

建築家

本間利雄設計事務所

地域環境計画研究室

主宰

本間 利雄



研究室の設立

地域生態計画（エコロジカル・プランニング）の世界的権威者であるイアン・L・マクハーグ教授（米国ペンシルヴァニア大学）との出会いは、私が建築活動への漠然とした行き詰まりを感じ、「建築家として地域に対して何ができるか？」と、そこから抜け出す道を模索していた頃だった。教授が米沢の八幡原工業団地の視察のために来県した一九七四年三月、私は教授と親しく膝を交えて話し合う機会に恵まれた。

私の自宅の庭を見ながら教授は「このよくない庭をつくる日本人が、なぜ隣のことを考えないのか」と。それに加えて「西欧人が自然を従属させてきたのに対して、古来日本人は自然とともに生活する態度をとってきた。にもかかわらず、今日の日本の都市は西欧のそれと比較して醜く、混雑している」と言われた。

その言葉をきっかけに、その翌年、地域環境計画研究室を創設した。

研究室の活動

研究室ではエコロジカル・プランニングの

手法を用いながら山形の風土に根ざした地域計画や建築計画に寄与することを目的に、地域の自然や社会・文化など、地域の環境の多様な事象について情報を収集し、調査・研究している。

エコロジカル・プランニングとは、自然環境が有する「可能性と限界」をもとに、最適の適応の方法を工夫する一連のプロセスであり、自然の生態学的な仕組みを理解して、環境とその中での人為的活動との調和を図ってゆくことが目的とされている。

研究室では地域の実状に即した活動を進め

美しさを護り

次代に伝える

のために、地域の文化的社会的な事象をそのプロセスに取り込むことも試行している。

活動内容は次の通り。

エコロジカル・プランニングの手法による環境調査（地域生態計画および環境アセスメント）

地域整備計画、観光レクリエーション計画

街並みやまちづくりの調査・計画

サイトプランニング（敷地計画）、ランドスケープデザイン

建築計画に伴う敷地調査や景観調査、また

計画や設計に寄与するために自然環境・社会的文化的環境の情報提供と助言

歴史的建築や民家の調査

特殊な施設の建築計画のための調査・研究の立案

設立以来の「生態学的な視点を踏まえた包括的な意味での環境計画の実践」と「地域の環境の特質や文化を重視した地域づくり・まちづくりのための計画・提言」という研究室の活動方針を堅持しながら、建築計画や設計また地域づくりやまちづくり活動に寄与するために地域の自然環境・社会的文化的環境の情報提供と助言、あるいは独自の提言を続けている。

個性と魅力ある地域づくりのために

山形という場所は、いくつもの盆地や平野が山々に囲まれ連鎖しており、いくつもの空間単位がそれぞれ自然と一体となっている小世界である。

だからこそ山形の自然は豊かで美しい。そこは手つかずの原生ではなく、縄文以来の人々の関与があつてつくられ継承されてきた私たちの生活の背景である。それらに抱かれるようにしてある集落や街もまた歴史と生活文化を重層させた私たちの生活の舞台である。それらが総体として山形らしい景観をつくってきた。

それらを形づくる多様な地域独自の資質を発掘し、新たに評価することで、いきいきと生まれ変わるものはまだまだある。社会的・経済的要請がときとしてそれらの資質を喪失させることもあるからこそ、山形の美しさを護り、次代に伝えることを義務と考えたい。